

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500057		
法人名	社会医療法人 小寺会		
事業所名	グループホーム 鶴見の太陽		
所在地	佐伯市鶴見大字沖松浦51番地		
自己評価作成日	平成26年 2月10日	評価結果市町村受理日	平成26年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490500057&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府 壱番館1F
訪問調査日	平成26年 2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から4年半が過ぎる頃から入所日数が長期になった一部の利用者には認知症の進行と高齢化に伴う身体機能面の低下等、重度化を来した症状が顕著となり支援の延長線上にあった看取りが視野に入り現実的なものとなった。併設施設の医師や看護師、管理栄養士、リハビリスタッフ等の応援や関連医療機関の訪問歯科診療や口腔衛生指導等柔軟で幅広い医療連携支援を頂きながら日夜、業務を遂行している。今回、3名の利用者を当グループホームからお見送りに縁し、貴重な経験をさせていただき、スタッフは看取りに対しての多くの不安を抱き、模索しながら“看取り介護”への実践をしている。通夜や初盆、会葬時にご遺族に終末期のケアをグループホームを選んだ理由をお聞きすることができ、看取りへの支援はグループホームを選んで入所して頂いた瞬間から始まっていることを実感した。今後も利用者、家族の期待や支持に大いに応えられる事業所であるよう頑張っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護老人保健施設や通所介護などと併設された当ホームは、松浦漁港が前方に窓から見え景色は最高のロケーションとなっています。施設内設備も充実されており、利用者にとっても満たされた生活が送れる環境となっています。また、ホーム全体で研修に取り組み、認知症や身体拘束など、全職員が学ぶ機会を多くし、職員のスキルアップに努め共通したケアが出来るような取り組みがなされ、重度化や終末期を迎えても、医師との連携が密に行われる体制作りが出来ており、職員等関係する人々が一緒にになり、利用者を支え安心出来るように、また利用者に応じて、一人ひとりのペースに合わせ楽しい時間が提供できるシステムが構築されているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 む の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 む の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域での生活の継続と関係性の継続を支えることを支援や関わりの中で忘れずに実践に繋げています。	地域の中でその人らしく暮らし続けられよう日常生活での支援に取組まれ、また朝礼やミーティング、スタッフカンファレンス等で全職員が理念について話し合うなど共有する取組みがなされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭や豊魚祭、小中学校の体育祭等、地域の行事には毎回ご招待をいただき催しを楽しみにしています。施設の夏祭りにも多くのかたに来ていただき交流しています。	自治会に加入し地域の行事や施設の催しなど、双方向で交流が行われ、近くの人達が気軽に立ち寄られ、漁協の方から魚などの差し入れなど、地域密着施設として位置づけがなされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の社会学習や職場体験やヘルパー研修(初任者)や基礎課程研修の実習施設として受け入れ、人材の育成にも貢献しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ここ数年の利用者の高齢化とそれに伴う医療ニーズの高まり等を事業所の活動内容や入所者の生活の様子にかぶせながら毎回報告しています。業務内容を改善しながらサービスの質を落とさない工夫・努力をしています。	運営推進会議のメンバーも12名と多く、2ヶ月に一度計画的に行われ、また事業所、利用者の課題等についても報告だけでなく、運営推進委員との双方向で意見交換がなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当から業界における情報や他施設での取り組み等を紹介していただいたり、不明な点等も担当者に尋ねながら指導を請うようにしています。	認定更新等を利用し、市の介護保険係の職員に利用者の状況・課題等について報告し、急ぎの時は電話・FAXで連絡するなど支援体制の連携に取組みがなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設では拘束防止委員会と研修委員会が中心になって身体拘束防止についての研修を必須の研修として取り組んでいます。拘束をしないケアについてカンファレンスで協議・検討し実践しています。	法人の研修と施設独自のスタッフカンファレンス等通じ身体拘束防止についての研修に取組まれ、また利用者が外出する気配を感じたら、一緒についていくなど落ち着いた支援がなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何気なく発した言葉尻が虐待に値していないか等、各自が言動を振り返りながらミーティングをしたり、施設内外の研修に参加して理解や防止の糧としています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設や法人で学ぶ機会を設け研修や勉強会に参加するようにしている。都合で参加できなかった職員は伝達講習等で履修しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改正時、利用者の状態の変化の際にもそれに伴った、ケアの方向性について等、逐一希望や疑問点を尋ねながら理解や納得・協力を図っています。家族会でも説明の機会を設けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会やケアプランの更新時等にケアや運営に対しての不安・不満等を尋ね苦情や意見要望を承っています。玄関にはアンケートボックスを設置して苦情の解決や運営に反映するよう努めています。	利用者、家族等が意見・要望が言いやすい環境を施設内に整えています。スタッフカンファレンスを毎月行いながら、職員間で苦情対応に共有できるシステムを構築されています。	運営推進会議、市役所の相談窓口など、事業所以外の外部の人に、家族が意見や苦情を伝える機会や場所がある事を繰り返し伝える事を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフカンファレンスやケア担当者会議、朝夕の申し送り等で意見やアイデアの提案を聞き、又、発信したりして運営や方針に反映させています。連絡ノートの活用で全員で周知徹底しています。	カンファレンスやケア会議などで、職員が気軽に意見を出せる環境づくりと日常の支援を行う中で、常に職員の意見・アイデアなどが素早く反映できる取組がなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人個人が常に向上心を持って自己研鑽に努めていけるよう上半期・下半期に渡る個人の目標を設定、実績の自己・他己評価を行なう就業の整備がされています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の知識や技術の向上はもとよりチームとしての力量のアップやメンタル面の強化をねらい、今年度はステップアップ研修や5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)に取り組みました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模介護ネットワーク主催の他施設の見学ツアーに参加。2事業所を見学、交流会の席での情報交換や意見交換の場を持つ事ができサービス向上への手がかかりとなりました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談では本人の思いや不安を会話の中から探れる場合ばかりではないことがしばしばです。何を求め、何を大切にしているのか、を知る努力を怠らず、常にその話に耳を傾け本人を受け留める姿勢で臨むことを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や経緯について一番聞いておきたい部分です。家族の労をねぎらいながら要望や不安を伺い、家族状況を把握し、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の状況や思いに添える必要なサービスが事業所として対応可能であるかを見極めながら併設する事業所や関連施設の情報も含めて説明紹介させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ごとの得意分野で力を発揮してもらい“誰かの役にたっている”、“助かったよ ありがとう”のさりげない関係性が築けるよう、又、そういう場面をたくさん持てるように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族との関係性を大切にすることがグループホームケアの本質だと思います。ご家族からの情報提供や思いや要望に耳を傾けながら家族といっしょにご本人を支えていける関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な帰省や自宅周辺へのドライブ・外出支援を行なっています。帰省時には友人や知人との対面も家族に依頼して場を設けてもらったり継続的な交流ができるように働きかけています。	利用者の要望により、知人・親戚宅へ出かけたり、年賀・暑中など季節の折々に出すハガキなど、本人を支えてくれた人への交流支援や、馴染みの職員が継続的に支える体制がなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分、感情に左右されやすい利用者同士の生活空間でのちょっとしたことでの言い争いや、疎外されたりすることがないように見守りや対応を行なっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気により入院退所となった方には必ずお見舞いに行き、経過を見守りながら支援を行なっています。併設の事業所へ部屋移動となった方には利用者といっしょに訪室して交流を続けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報を基に、行動や表情・会話等から思いや希望・戸惑っていることを推察して汲み取り把握に努めています。何かのサインはスタッフ間でヒントとして共有しています。	家族や本人をよく知る人から意見を聞いたり、利用者の表情、言葉、行動など日頃の支援の中から思いや意向をくみ取り、本人が安心できるよう支援の取組みがなされています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族以外の面会者からもそれまでの暮らし振りが聞かれることがあります。プライバシーに配慮しながら本人のケアに活かしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	そのかたの生活のリズムや生活習慣を理解し、認知症の進行による心身の状態の変化は日々の関わりの中で観察しスタッフ間で申し送りにつなげています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の思い・意見を聞き介護計画に反映させる場合もありますし、アセスメントや日々の申し送り等での気づきやアイデアを参考に介護計画にして課題として取り組んでいます。	介護計画の見直しは更新時や本人の状況の変化に応じ、また利用者・家族・職員等の意見を参考にしながら、本人本位に計画を作成されています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄・整容面・身体的な事を含むその日の様子等を個別に記録し職員間で共有、申し送りや介護計画の見直し、ケアの実践に活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	老健との併設施設ということもあり、管理栄養士や歯科衛生士、リハビリスタッフに相談することができ、専門的な、アドバイスが得られます。自費でショート利用できる1室を備えています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設行事(夏祭り・餅つき)等は近隣や地元の方々からの応援で成り立っています。防災訓練は近隣の住人のかたぐるみで実施しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院はご本人や家族の希望に応じて対応しています。家族の同伴同行も事前に希望や意向を確認しながら受診・通院介助を行なっています。	利用者や家族の希望する医療機関への受診、通院支援を行い、職員が同行した際、医師との情報交換を行い受診結果等についても、家族に報告するなど情報の共有に取り組まれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しています。日々の申し送りやケアの際に発見した変化や気づきは逐一報告しています。主治医や併設施設の医師、看護師にも相談援助してもらえる体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には診療情報提供書や電話・対面による情報の交換・相談を行っています。入院中もMSWや医療機関のケア関係者、家族と連絡を取り退院のめどやアプローチ等、計画を立案し関係作りに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や看取りについては事業所が対応できる内容事を説明し、意思確認書をいただいています。安心して終末期を過ごしていただけるように本人・家族の意向を確認しながらケア方針を共有し支援しています。	重度化や終末期ケアについて利用者や家族の意向を大切に、定期的な意思確認に取り組まれ、看取り研修で得た知識を活用し、より良いケアに繋げるよう、職員で支援方法を共有されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急・急変時に対応できるよう講習会やシミュレーションを必須の研修として年間計画に定めています。緊急急変時に冷静で適切な判断と対応ができるようにマニュアルの周知に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に地域住人の方に協力をいただきながら火災・地震・津波の避難訓練を昼夜や夜間を想定して行っています。終了時には消防署職員からの助言や講評を聞きながら事態に備えています。	地域の方や消防の協力を得ながら、災害を想定した避難訓練を定期的に行い、日頃から避難路の点検や、安全に避難できる環境を整え、食料や飲料水などの備えも万全な体制がとられています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対人援助職として守秘義務や尊厳の重視、接遇・マナーの研修も積極的に受講しています。日々の関わりの中での言葉や立ち振る舞いを指摘しあったり、反省したりしながら各自が毎日自己を振り返っています。	日々のケアの中で本人の意思を大切にし受容や共感、言葉かけを意識しながら支援しています。プライバシー保護や個人情報に関しての研修も事業所内外への参加を積極的に行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気兼ねせず希望や意思決定ができるように日常生活の中での関心や嗜好を見極める努力をしています。意思表示が困難な方には声かけや誘導時にその方の表情や態度を観察しながら汲み取っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが食事・入浴等は本人の希望でその方の生活様式や気持ちに合わせています。みんなで過ごしたい方独りが好きなかたそれぞれのライフスタイルに沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に髪の毛がはね上がっていたりボタンの外れや掛け違い、衣服の汚れや乱れ等も気持ちを注いでいます。散髪や白髪の染髪、爪切り等の時期も本人の意向を聞きながら支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の際の野菜の皮むきや材料の下ごしらえ等は利用者と一緒にしています。焼きそばや餃子の時は利用者がほとんど全部の工程に携わりますので皆さん生き生きとしています。、	調理の日には、一人ひとりの力を活かし利用者と共に準備を行い、利用者の希望や旬のものに配慮したメニューに取組まれ、食欲をそえる工夫がなされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設に管理栄養士が常勤しており、栄養バランスは確保できています。ホームでの食事作りにはメニューが前日等と重ならないように考慮し献立を考えます。食事量や水分量は毎回チェックし記録、管理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力や状態に応じたマウスケアを行なっていくよう口腔ケア委員会を中心にチェック表を作成し取り組んでいます。歯科衛生士の指導や訪問歯科診療も月に1回実施しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら排泄の回数、量、形状、間隔等の管理を行なっています。排泄の自立や過度の用品の使用を避ける等、排泄委員会が中心となって検討、支援しています。	全職員が一人ひとりの排泄パターンを把握し利用者の状況に応じた支援を行い、出来る限りトイレでの排泄が続けられるように利用者の様子をよく観察し支援に取組みがなされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排泄日を夜勤者がチェックし3日未排便である場合には申し送りで報告しています。体調や腸内環境の個人差もあるのでなるべく薬や医療的行為に傾かないように日頃からの水分摂取には留意しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかな入浴日はありますが入りたい日やその日の気分や希望で臨機応変に対応しています。ゆずを浮かべてみたり、入浴剤を入れたりしてリラックスして入っていただけるように努めています。	利用者の希望や生活習慣に合わせて入浴支援を行い、入浴を拒む利用者においては散歩などを行い、気分転換するなどの工夫をし、気持ち良く入って頂けるよう支援がなされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息はリビングで過ごすかた、お部屋の好きなかた、9人9色様々です。睡眠もその方の生活スタイルに応じて照明や就寝時間も様々です。個々に合わせて良質の睡眠がとれるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬事故を防ぐために2者で確認しながら毎回服薬支援を行なっています。飲ませ忘れを無くす為にチェック表を用いて幾行程で確認を行います。容量、容量や効能等は処方箋ファイルで閲覧できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ、おしぼりを巻く、茶碗を洗う等の日常の家事をお願いしています。ラッキョや梅干や梅酒を漬けたりするのは我々が教わる姿勢で臨んでいます。役割や生活歴を活かしてそれが自信につながるように支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な通院が必要な利用者の通院介助が1例あります。通院後に自宅に寄り1時間程家で過ごされ気分転換してホームに戻ってきます。家族や本人の希望に沿って可能であれば柔軟に対応しています。	事業所周辺での散歩や近くのスーパーでの買い物など積極的に外出され、また年に1～2回、馴染みのある場所へ出掛けたり市内のデパートの展示会へ足を運んだり利用者の希望を取り入れた支援がなされています。	重度の利用者における積極的な外出支援が行われることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	9名中6名のかたが施設でお小遣いの管理をしています。所持金の所在について不安になる方ばかりですが、所持金があるということで精神的な安心感につながる場合もあり、きちんと管理をして社会性の維持の支援に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人、知人との関係性の継続に電話や手紙の支援は必要です。やりとりの内容等当人任せにせず、プライバシーに配慮しながら個別に支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備や季節毎の壁面等の装飾には力を入れています。利用者や面会者が見た時に季節感が感じられ情緒的に安定し、安堵できる空間、雰囲気づくりを心掛けています。	利用者がこれまで生活してきた自宅の延長として、ゆったりくつろげる空間になっており、壁面の装飾は職員と利用者が一緒に作成し、季節を感じる事が出来るよう工夫がなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コーナーや柱を利用して共用の空間やプライベートなゾーンが確保できるようにそれぞれの居場所を工夫している。テーブルの位置も対人関係によって時々変えて対応しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向を尊重し、縁のある物、家具を自由に持ちこんでいただいています。入所前の生活との継続性を持たせ、そのかたらしく生活していただけることが何より大切だと思います。	一人ひとりのライフスタイルに合わせ、その人らしく過ごせる居室作りに取組まれ又、利用者にとっての馴染みの物も配置されるなど、自宅と同じように落ち着いて過ごせる環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	開設以来より家財道具が増え利用者の安全にふさわしくない家具や福祉用具の配置を見直し、安全で自立した生活ができるようにスペースや表示等をわかりやすく工夫しています。		